

イカリソウ



東京理科大学 薬草園



葉を乾燥させたもの

学名 : *Epimedium grandiflorum* Morren var. *thunbergianum* Nakai

生薬和名 : 淫羊藿(インヨウカク)

科名 : メギ科

属名 : イカリソウ属

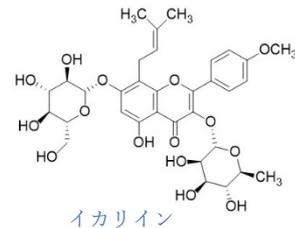
形態 : 日本各地に自生する落葉多年草(注1)。根茎は横走。根生葉は2回3出複葉。小葉は卵形で先端が尖っている。茎の先に複総状花序(注2)を出し、淡い紫色の花を下向きに開く。

成分 : 葉や茎にイカリイン、根にマグノフロリン。

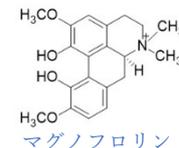
薬用部位 : 地上部。

用途 : 漢方では強壯、強精、神経衰弱、健忘症に用いる。

製剤 : 滋養強壯ドリンク剤や薬用養命酒。



イカリイン



マグノフロリン

イカリソウは4つの長い距を持つ花の形をしており、それが船の四爪錨に似ていることに由来している。漢字では錨草と書くが碇草と書くこともある。これは古代日本では鍵状になった木に石を取り付けたイカリ(碇)が用いられていたからだと言われている。また中国の『本草綱目』に「西川(注3)北部に淫した羊あり。この藿を食べたために、一日百遍交合す。」と記されていたことが生薬名である淫羊藿の由来である。藿とは豆の葉のことで、イカリソウの葉が豆の形に似ていることからそのように呼ばれている。さらに老化や更年期障害などにも広く使われており、足腰の麻痺や痺れ、関節痛に用いられるため、老人でも杖などは不要という意味の「放杖草」といわれることもある。

(注1) 冬は地上部が枯れるが根っこは地下に残り春に再び芽を出す宿根草。

(注2) 花軸が細かく枝分かれし、その枝分かれした花軸に花柄がある小花をつける花のつき方。

(注3) 現在の中国 四川省。

参考

- ・生薬単 改訂第2版 伊藤美千穂・北山隆監修 原島広至著 丸善雄松堂
- ・[インヨウカク | 生薬について | 養命酒製造株式会社 \(yomeishu.co.jp\)](http://yomeishu.co.jp)

2022/06/20 4YM FH